

～認知症と診断された方のご家族からのメッセージ～

夫の変化（気力低下や物忘れ）に気が付いた時、誰にも相談できないし、誰に相談して良いのか分からず、家族みんながしんどくて不安で仕方ありませんでした。また、夫の症状に対し、原因が分からずに途方に暮れていました。

そんな時、担当ケアマネジャーが親身になってくれ、病院へも付き添って一緒に考えてくれました。わたしは一人ではないと心から思えました。

今では、介護保険サービスを利用しながら自宅での生活を続けています。

通所事業所から帰宅するとその日にあった出来事など生き生き話してくれます。

これまで夫婦一緒の時間が長いからこそ会話が少なかったのですが、夫婦の会話も増え、夫には感謝しています。



Aさん

ある日、ゴミ捨ての日を間違えることが多くなっていると近所の方が教えてくれたことが母の変化に気が付くきっかけでした。

それから母の行動に「あれ？おかしいな」と感じるようになり、半年後には入浴しなくなったり、夏にストーブをつけていることもありました。

認知症と診断され処方薬が出ましたが、母は薬を飲みたがりませんでした。ケアマネジャーへ相談し、主治医に相談した結果、飲み薬から貼り薬に変更してもらい、今では家族で対応ができています。

母は50年以上住みなれた地域で暮らしており、これからも母の地域に住み続けたいという意思を大切にしていきたいと考えています。

ご近所の方も気にかけて見守ってくれて、家族だけでなく地域で支えられています。

どうしようどうしようと一人で悩むのではなく、誰かに「どうしよう」と相談したら、一緒に考えてくれます。



Bさん